

## 広島市立大学『広島国際研究』刊行規程

(刊行の目的)

第1条 広島市立大学国際学部(以下「学部」という。)及び広島市立大学国際学研究科(以下「研究科」という。)における学術研究の成果を発表するため、『広島国際研究』(以下「本誌」という。)を刊行する。

(掲載内容)

第2条 本誌に掲載する研究成果は、国際研究とのかかわりを有する未発表の学術論文および研究ノートに限る。

(投稿資格)

第3条 本誌に研究成果を発表する資格を有する者は、主に学部・研究科の専任の教員及び本学の非常勤講師などとする。ただし、本学の教員以外の者の投稿を妨げない。

(刊行)

第4条 本誌は、原則として毎年度1回刊行するものとし、刊行は11月末までとする。

(委員会)

第5条 本誌の編集、刊行を行うため、『広島国際研究』編集委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会の組織及び運営については、別に定める。

第6条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則

この規定は、平成30年7月1日から施行する。

## 広島市立大学『広島国際研究』刊行規程に関する細則

広島市立大学『広島国際研究』刊行規程第6条の規程により、次のとおり細則を定める。

### 1 投稿手続き

- (1) 『広島国際研究』に投稿しようとする者は、毎年度2月末日までに、所定の投稿申込書を国際学部分室に提出しなければならない。
- (2) 原稿の提出締切日は、毎年度4月15日とする。
- (3) 原稿の提出に当たっては、必ず打ち出した紙の原稿と電子メディア(CD-rom, USBなど)を封筒に入れ、所定の論文または研究ノート投稿用紙に必要事項を記入し、封筒に貼り付けて国際学部分室に提出するものとする。

### 2 執筆要項について

原稿の執筆要項については別に定める。

### 3 論文および研究ノート審査について

- (1) 投稿論文および研究ノート審査については、審査により、掲載の可否を決定するものとする。
- (2) 審査は、別に定めるところにより、行うものとする。ただし、依頼論文についてはこの限りでない。

### 4 刊行規模及び体裁

- (1) 刊行規模については、編集委員会がその都度決める。
- (2) 体裁は、B 5判とし、原則として横2段組とする。ただし、研究分野によっては、縦2段組とすることができる。

### 5 校正等について

- (1) 編集に当たり、編集委員会がその必要があると認めるときは、執筆者に原稿の書き直し、縮小等を求めることができる。
- (2) 著者校正は、原則として、1回とする。なお、校正の際の訂正加筆は、植字上の誤りに限るものとする。

### 6 印刷部数について

印刷部数は、発行の都度、必要に応じて編集委員会で決定する。

### 7 配付について

『広島国際研究』は次に掲げるところにより、無料で配付するものとする。

- ① 執筆者 本冊1部
- ② 国際学部・国際学研究科の専任教員及び本学の非常勤講師で配布を希望する者 本冊1部
- ③ 国際学部・国際学研究科の学生及び国際学研究科院生で配布を希望する者 本冊1部
- ④ その他編集委員会で認めた者及び機関

### 8 ウェブ上での公開とその許諾について

『広島国際研究』は、編集委員会が認める手段でウェブ上に公開される。投稿申込書の提出をもって、投稿論文がウェブ上に公開されることに関して著者が許諾したものとする。

附 則 この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則 この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成20年11月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年7月1日から施行する。

## 『広島国際研究』執筆要領

この執筆要領は、「広島市立大学国際学部『広島国際研究』刊行規定」に基づき、本誌の形式上の統一及びその能力的編集・刊行を図るため、原稿の書式・作成方法等に関し基本事項を定めるものである。

### 1. 使用言語

日本語または英語

### 2. 論文ページ数

刷り上がりの上限は、図表、写真などを含み、16ページ(邦文2100字/ページ、欧文650語/ページ)とする。

### 3. 文字数

邦文33,600文字、欧文10,400語を上限とする。

### 4. 原稿の作成及び提出方法

(1)原稿は、原則として横書きとし、パソコンを使用する。ただし、研究分野によっては縦書きも認める。

(2)原稿は、A4判用紙に、邦文横書きの場合は40字×20行を、邦文縦書きの場合は32字×25行を、欧文の場合は80字×40行を1ページとして打ち出し、完成原稿とそのコピー1部、及び電子ファイルを提出する。

(3)書式の詳細に関しては、「『広島国際研究』書式の手引」によるものとする。

(4)邦文原稿の場合には、欧文表記による表題と執筆者名を付す。

(5)注及び引用・参考文献等は、原則として論文末に一括する。

(6)図表、写真等には、番号を付し、本文中に挿入位置を明示し、別紙に印刷して提出する。

### 5. 論文要旨

邦文原稿・欧文原稿ともに欧文要旨を付す。要旨は200語程度とする。執筆者は内容に即した欧文要旨を作成する義務がある。

### 6. キーワード抽出

5語前後のキーワードを抽出し、本文に添えて提出する。

## 『広島国際研究』書式の手引き

本誌への投稿者は、次の書式に従って執筆して下さい。

### 1. 目次

本文の前に目次を立てる。目次の前に英文要約を配置する。

### 2. 句読点

本文中及び注の文中における句読点は点(、)と丸(。)とし、原則としてコンマ(,)は用いない。

### 3. 文章及び章、節、項

文章は常用体、新かなづかいによるものとする。章、節、項の見出しの数字は、以下のように統一する。

章 I. II. III / 節 1. 2. 3. / 項 (1) (2) (3) / 目 (a) (b) (c)

### 4. 引用

引用は、本文中又は注の文中に、丸括弧に入れて、著者名、慣行年：頁数を記す。

例：中村(1951: 21)によれば

…と言われている(Malinowski 1972: 304)。

同一文献から何度も引用する場合も、Ibid.上掲書などとせず、上記方式の表記を繰り返す。

著者が3人以上の場合には、一著者の後に他、et.al.を付す。

### 5. 注

注は後注とし、本文中の注見出しに通し番号(1, 2, 3…)を付す。ただし、引用注は含めない。

### 6. 人名

本文注および注の文中における姓と名の順序は、原則としてそれを使用する社会の慣行に従う。

### 7. 文献目録

文献目録は下記の要領で作成する。

- (1)文献の配列は、著者姓のアルファベット順。ただし、洋書と和漢書の数が共に多い場合は、別にまとめる。
- (2)訳書を用いた場合、原著名などを( )内に併記する。
- (3)文献の記載順は、著者姓・著者名(できるだけフル・ネーム)、刊行年、論文名、書名、誌名、巻、号、出版地：出版社とする。

## **Hiroshima Journal of International Studies**

The Hiroshima Journal of International Studies publishes empirical and theoretical papers in the general area of international studies. Preference will be given to papers addressing issues in political science, economics and management, and cultural studies, including language studies and education. Contributions of an interdisciplinary nature are especially encouraged.

All papers submitted must not be under consideration by any other journal and will be subject to a blind review process. The Journal is published annually and all papers must be submitted by April 15 of the year of publication. Authors should inform the editor of their intended submission by the last day of February.

The editorial committee encourages all staff of the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies to disseminate their research findings via this journal. The committee will from time to time invite submissions from eminent scholars and will be pleased to consider sub-missions from researchers in other parts of Japan and those from overseas.

Any researcher interested in contributing to the Journal should contact and request the General Guidelines for a paper from the following: Faculty of International Studies, Hiroshima City University, 3-4-1, Ozuka-higashi, Asaminami-ku, Hiroshima, 731-3194, Japan.

Tel: (082)830-1505

E-mail: [kyoken@m.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:kyoken@m.hiroshima-cu.ac.jp)

## Hiroshima Journal of International Studies General Guidelines

This guideline determines the format and the style of the manuscripts in order to assure consistency and smoothness in editing and publications.

1. Language

Japanese or English

2. Number of pages and words

The maximum number of pages is 16 in final journal page format, including tables, photographs, etc. The maximum number of words is 10,400 (650 words/page).

3. Submission of Manuscript

(1) Manuscripts must be typed throughout. According to the fields of research, manuscripts may be typed vertically.

(2) The manuscript should be double-spaced on A4 paper, approximately 80 characters per line. The final version of the manuscript, one copy and the electronic data must be submitted.

(3) For detailed regulations on the format, please refer to 'Guidelines for Citations, References, and Style'.

(4) Titles and names of the authors must also be written in English for the Japanese manuscripts and in Japanese for the English manuscripts.

(5) Notes, references, and appendices are placed at the end the manuscript.

(6) Tables, figures, etc. Should be numbered and have brief titles. Indicate locations in the text to insert tables and figures. Submit tables and figures on separate sheets.

4. Abstract of Paper

The manuscript must be accompanied by an abstract (approximately 200 words in English). The abstract should be written in English for both English and Japanese manuscripts.

5. Indexes

Select approximately 5 important keywords either in English or Japanese.

## 『広島国際研究』第25巻

### 執筆者紹介（掲載順）

金	栄 鎬	（本学国際学部教授）
李	在 鎬	（本学国際学部教授）
平野	実	（県立広島大学経営情報学部教授）
李	玲	（本学国際学部講師）
佐藤	深 雪	（本学国際学部名誉教授）
藤原	優 美	（本学国際学部講師）
閻	璐	（本学国際学部研究科博士課程）

編集委員（アルファベット順 ○印：委員長）

飯 島 典 子（准教授）  
高 久 賢 也（准教授）  
武 田 悠（講 師）  
山 口 え り（准教授）  
○ 湯 浅 正 恵（教 授）

編集後記

改元の祝うべき年の号となる訳だが、今年も挑戦的な研究成果が集まったことは喜びに堪えない。論文を執筆する者、読む者の喜びは常識や定説に「挑む」ということだ。この開拓者精神は時代が変わっても失われることはない。個々の試みは斬新であり、その「斬新さ」が「変わらぬ伝統」になって研究は進んでゆく。毎年の刊行だが、この積み重ねが研究の進歩に僅かながらでも貢献しているのであれば編集委員としては何ものにも代えがたい喜びである。

ただ相次ぐ台風 19 号、20 号の襲来で日本全国に予想外の被害があったことには心が痛んだ。被災された方には心よりお見舞いを申し上げる。

副編集委員長 飯島典子



2019年11月30日発行

編 集 広島市安佐南区大塚東3-4-1  
広島市立大学国際学部・国際研究学科  
『広島国際研究』編集委員会  
電話 082(830)1505

発 行 者 広島市安佐南区大塚東3-4-1  
広島市立大学国際学部・国際研究学科  
学部長・研究科長 大庭 千恵子  
電話 082(830)1505

印 刷 者 株式会社 沼田総合印刷  
代表者 丸 林 智 行